

貯蓄の状況

1 概要

(1) 全世帯の貯蓄現在高は1728万円

平成17年平均の全世帯の1世帯当たり貯蓄現在高は1728万円で、前年に比べ2.1%の増加となった。貯蓄年収比（貯蓄現在高の年間収入に対する比）は、年間収入が645万円で前年に比べ0.8%減少したこともあり、前年に比べ7.6ポイント上昇し267.9%となった。

このうち勤労者世帯についてみると、1世帯当たり貯蓄現在高は1292万円で、前年に比べ1.5%の増加となった。また、貯蓄年収比は、年間収入が719万円で前年に比べ1.5%減少したこともあり、前年に比べ5.3ポイント上昇し179.7%となった（表1）。

表1 貯蓄現在高の推移

年次	貯蓄現在高 (万円)	年間収入 (万円)	対前年増減率		貯蓄年収比 (%)
			貯蓄現在高 (%)	年間収入 (%)	
全世帯					
平成14年	1688	683	-	-	247.1
15	1690	660	0.1	-3.4	256.1
16	1692	650	0.1	-1.5	260.3
17	1728	645	2.1	-0.8	267.9
勤労者世帯					
平成14年	1280	748	-	-	171.1
15	1292	721	0.9	-3.6	179.2
16	1273	730	-1.5	1.2	174.4
17	1292	719	1.5	-1.5	179.7

(2) 約3分の2の世帯が平均貯蓄現在高を下回る

全世帯について貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると、平均値（1728万円）を下回る世帯が67.3%（前年67.6%）と約3分の2を占め、世帯分布は貯蓄現在高の低い方に偏ったものとなっている。なお、最も世帯数の多い階級は200万円未満の階級で、全世帯に占める割合は14.1%となっており、前年（13.8%）に比べ0.3ポイント拡大した。

また、世帯全体を二分する中位数は1052万円（前年1024万円）となった。

このうち勤労者世帯についてみると、平均値（1292万円）を下回る世帯が66.6%（前年67.9%）を占め、世帯分布は貯蓄現在高の低い方に偏ったものとなっている。なお、最も世帯数の多い200万円未満の階級の勤労者世帯に占める割合は16.5%で、前年（16.2%）に比べ0.3ポイント拡大した（図1）。

图1 貯蓄現在高階級別世帯分布

